



# 洋上アルプス

No.345 2024年1月5日



発行 林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等はこちら

[https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL 0997-42-0331 FAX 0997-42-0333



## 森林環境の保全と木材利用の両立に向けて



屋久島森林管理署 署長 森本 茂

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は屋久島森林管理署が実施する各種業務等に対しまして格段のご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、皆様方ご承知のとおり、昨年は、屋久島が世界自然遺産に登録されて30周年となる節目の年とな

## 新年を迎えて



屋久島森林生態系 保全センター 所長 山部 裕一

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は屋久島森林生態系保全センターに対し、格別のご理解とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

昨年、屋久島世界自然遺産登録30周年事業として、屋久杉巨樹・著名木調査を実施しました。

前回の調査は、日本初の世界自然遺産に屋久島が登録される前年、平成4年に国有林野内に賦存する代表的な屋久杉を、屋久杉自然館と上屋

りました。私は、平成6年度に、旧上屋久営林署に勤務したことがありますが、その当時に比べ、今では世界自然遺産の価値に対する一般の方々の意識や想いは随分高くなっていると感じています。このような意識や想いを次の世代に繋げ、屋久島の持続的な発展に貢献すべく、引き続き関係行政機関、団体、地域の皆様方のご意見等を賜り、合意形成を図りながら連携して世界自然遺産地域等の適切な保全管理に取り組みまいります。

一方、屋久島は観光や漁業のほか、林業の島でもあります。林業の振興といった観点からも人工林の適切な整備に取り組みすることが必要で

久営林署及び下屋久営林署等が中心となり、約1年間を要して実施されました。その結果は平成5年8月に屋久杉自然館から発行された「屋久杉巨樹・著名木」により広く公表されています。

今回、当保全センターでは、各関係機関にご協力をいただき前回調査した屋久杉を中心に、3Dレーザ計測やドローン等を使用した調査を行い、形状や植生など様々なデータの収集を実施しましたが、日本で最も降雨量の多い屋久島で精密機械を使用する調査は天候に左右され、やむを得ず調査を中止することが多々ありました。また、屋久杉の巨大さや急峻な地形に加え周辺の成長した草木が支障となり計測や撮影は困難の連続でした。

しかしながら、先日の30周年記念シンポジウム会場において、調査した屋久杉巨樹・著名木の3D映像

す。「伐って、使って、植えて、育てる」といった森林資源のサイクルには、屋久杉苗木の生産や木材の利用に向けた課題の解決など継続した取組と関係する皆様方のご協力が不可欠です。各種機会を通じて情報の共有を図り、これらの課題解決に向けて取り組んでまいります。また、昨年の台風6号の被害を受けた箇所への復旧やシカ被害対策等にも取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、今年も干支でいうと辰年。十二支で唯一の想像上の動物です。竜(龍)のごとく今年一年が皆様方にとってさらに飛翔できる素晴らしい一年となることを祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

や調査の際に撮影した写真のパネル展示をしたことにより、普段は見られない屋久杉巨樹・著名木を屋久島町内外の子どもからお年寄りの方が興味深くご覧いただく姿を見たり、この調査が本場に有意義な調査であったことを当保全センターの職員が認識しました。改めてこの調査にご協力いただいた各関係機関の皆様にお礼を申し上げます。

これから当保全センターでは、各関係機関と連携しながら今回収集したデータを屋久島の大切な世界自然遺産を守るために活用し、国有林の適切な保全と利用を図るために皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

次の30年に向けての出発点となる今年が皆様にとって素晴らしい年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 西表森林生態系保全センターとの意見交換（11月13日～15日）

当保全センターの職員3名は、西表森林生態系保全センター（以下、西表センター）へ出張しました。

1日目は、石垣港から上原港まで高速船で渡り、西表センターの下田所長と須寄主事にマングローブ林やサキシマスオウノキ、タシロマメ（希少種）の調査プロット等の案内・説明を受けました。

あいにくの小雨で雨具着用になりましたが、備船しての最初の仲間川では、観光用の遊覧船の数も多く行き来しており、遊覧船が立てる波によりマングローブ林に悪影響を及ぼすことから速度に規制がかけられるなど、対策がされている説明を聞き、保全されているのがわかり、中々経験することがない良い経験でした。

板根を持つサキシマスオウノキの視察では、着生植物や珍しい植物等も観ることができ勉強になりました。なお、サキシマスオウノキの見学施設について、手すりや踏板の老朽化により一般観光客の出入りが禁止されており、施設改修の問題については、どの場所でも今後問題となってくるものとして改めて感じました。



見学施設の老朽化について意見交換

その後、歩道を歩き、展望台から仲間川とマングローブ林の雄大さを観ることができました。

また、外来種であるギンネムの駆除について、試験調査しているところも案内してもらいました。

2日目は、西表熱帯林育種技術園及び西表野生生物保護センターを視察し、西表センターにて、森林環境教育、特に森の塾の取組状況や各センターでの課題などの意見交換を行いました。

今後、両保全センターの取り組みについて情報共有することを確認し終了しました。

## 花之江河に堰設置（11月28日）



作業の様子（上）と敷き詰めた枝条等（下）

令和5年度の高層湿原保全対策については、令和4年度に策定した湿原保全対策を踏まえ、5月に現地踏査と打合せを行い、局所的に浸食が進んでいる流路の浸食防止対策及び祠付近に集中していた流路を分散するための流水分散対策として具体的な場所と手法を確定し、11月28日に堰設置等の湿原保全対策を実施しました。

対策内容として、急激な流れが生じる可能性のある流路に堰（枝や倒木の投入等）を設置すると同時に祠方向への流れを分散させるために木道下に堰を設置しました。

また、旧植生保護柵前の木道下や周辺に滞留している枝条を撤去し、堰の周囲及び凹部にその枝条を敷き詰める等の作業を行いました。

なお、令和5年度は試行的に実施することとし、対策の効果を鑑みながら、場所や手法を再検討するといった順応的管理に基づいて行っていくことが重要と参加者（下川委員、井村委員、九州森林管理局、環境省、事務局）間で共有しました。



## 安房中学校で森林教室を実施（12月5日）

12月5日（火）に安房中学校1年生24名に対し、当保全センター及び屋久島森林管理署で森林教室を実施しました。

当日は、校庭で樹木観察や測樹体験を行い、教室にて講義と班ごとに「シカと森のカード」というシカと生物多様性について学べるカードゲームを実施しました。裏返しにしたカードをめくり、動物や樹木のカードを集めて森を作っていくのですが、シカのカードが増えすぎると一部の生き物が全滅してしまいます。

生徒たちは、和気あいあいとカードをめくっては一喜一憂し、時にはシカのカードをどう調整するか皆で話し合いながら学んでいました。

ゲーム終了後どんな「森」になったか発表してもらいました。

シカをすべて駆除してしまった班、シカを含めた多くの動植物がいる班とそれぞれの班で個性のある



樹木について説明

「森」ができました。

その結果をもとに森林保全・生物多様性等の講義を行いました。

シカも森を作るうえでの重要な構成要素であり、多くの動植物がバランスよく生息していることが重要だと伝えることができました。

## 屋久島世界遺産地域連絡会議第2回幹事会及び検討の場を開催（12月6日）



屋久島世界遺産地域連絡会議第2回幹事会

令和5年度屋久島世界遺産地域連絡会議第2回幹事会及び検討の場が、12月6日（水）に鹿児島森林管理署会議室において開催されました。

幹事会では、地域連絡会幹事会の主な議題として、①令和5年度の第1回科学委員会の議論の整理について、②令和5年度科学委員会の開催について③屋久島世界遺産地域管理計画に基づくモニタリング計画改定の素案について④花之江河の流水分散対策、浸食防止対策について等、各機関から説明がありました。

九州森林管理局からは、屋久島高層湿原保全対

策について、令和4年度に策定した湿原保全対策を踏まえ、5月に現地踏査と打合せを行い、流水分散対策として具体的な場所と手法を確定し、11月に実施した湿原保全対策の概要説明がありました。

また、湿原対策のヒアリング結果で、ガイドさんからは、景観も良く休憩のタイミングとして良い場所なのでぜひ残してほしいとの意見や、岳参りの方からは、神聖な場所なので祠が倒れないように浸食対策をすぐに行ってほしいとの意見があったとのことでした。

委員からは、屋久島世界自然遺産登録30周年シンポジウムの報告について、20周年の際にもシンポジウムの前後で科学委員会に報告しているので、今回も同様の対応をお願いしたい等の意見が出されました。

午後の検討の場では、令和5年度の各行政機関等の取組状況及びモニタリング計画の改訂等について説明があり意見交換が行われ、来年2月開催予定のヤクシカWGに報告する内容等を確認しました。



## 屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和3年度）衰退樹木等のモニタリング

### 調査地点及び方法

設定した標高毎の5地点のプロット（標高200m～標高1,000m）において、前回（平成28年度）に選定された比較的健全な樹木と、比較的衰退している樹木について、樹形・樹勢、根元周りの概況調査を行った。

### 調査結果

衰退した原因を、平成28年度に既に枯死した2本を除く比較可能なモニタリング木23本でみると、「腐朽」が14例（40.0%）で最も多く、次いで「茎頂部損傷（疑いを含む）」と「ブナ科萎凋病（過去に罹患歴がある）」がともに4例（11.4%）となっている。

衰退の原因（複数含む）	症例数（例）	割合（%）
腐朽	14	40.0%
茎頂部損傷	4	11.4%
ブナ科萎凋病（過去）	4	11.4%
踏み固め	3	8.6%
雨水浸入（開口空洞・着生）	3	8.6%
被圧	3	8.6%
接触・摩擦	2	5.7%
つる植物絞めつけ	2	5.7%
合計	35	100.0%

衰退した原因

### 調査結果の考察

当該地域は、海洋からの北東風がダイレクトに山腹にあたるため、低標高から高標高にかけて雨になる多雨地帯で、標高400mから上は強風による風衝被害・落雷被害も起こる地域である。歩道やプロットのある尾根付近は地盤が固く、登山者による踏み固めもあり、根株付近の損傷が比較的多い地域である。今回の調査で目立ったのは、標高200mから400mにかけて出現するスダジイ大径木の衰退や枯死である。標高200mについてはこれまで15年以上にわたって植被率が95%と林冠が閉鎖し、緩い尾根上で風通しが悪く、多湿な環境が続いたことも菌類の増加に影響した可能性がある。また、シカによる萌芽枝の食害を受けてきたことも、更新できずに本数を減少させた原因と考えられる。



開口部の樹皮の端が崩れていくスダジイ



スダジイに見られたシイサルノコシカケ子実体表面部

## グリーンサポートスタッフ(GSS)巡視記録より ～花と景色～

### トクサラン



トクサランは12月8日、太鼓岩までのパトロール中に見つけました。

名の由来は、葉の落ちた古い茎が並列する様子がトクサに似ているからとのこと。よく見かけるエビネは春に花を咲かせると思いますが、この時期の開花は、森の中でひときわ目立ちます。

### サネカズラ（実）



サネカズラ（実）も12月8日、太鼓岩までのパトロール中に見つけました。

落下した実と、受け止めている苔の色はクリスマスを感じさせてくれました。樹皮から採った粘液を整髪に、実は薬用、果実酒にも使われていたようです。